

2021年度 夏出発 Business Studies Abroad II・IV 募集要項

二次募集

<http://ritsumei-ba-gblp.jp/>



INDEX

| | | |
|----|------------------------------------|------|
| 1 | Business Studies Abroad II・IV募集の流れ | P. 1 |
| 2 | Business Studies Abroad II・IVとは？ | P. 1 |
| 3 | 応募資格について | P. 2 |
| 4 | 留学予定先について | P. 3 |
| 5 | 学籍と受講登録について | P. 4 |
| 6 | 留学決定後の事前ガイダンスについて | P. 5 |
| 7 | 応募書類について | P. 5 |
| 8 | 選考方法について | P. 5 |
| 9 | 留学に関わる費用・奨学金について | P. 6 |
| 10 | 単位認定と成績評価について | P. 7 |
| 11 | 注意点 | P. 7 |
| 12 | 個人情報について | P. 7 |
| 13 | 派遣先大学紹介 | P. 8 |
| 14 | 立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項 | P.15 |

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、みなさんの安全を第一優先とし、留学の選考や派遣の中止を判断する場合がありますので、その点ご了承いただいた上でご応募ください。なお、派遣の最終判断は、派遣時期のおよそ3か月前を目途に全学・学部の方針に基づき行う予定です。

1 Business Studies Abroad II・IV募集の流れ

二次募集

以下のとおり、2021年度夏期出発BSA II・IVの募集を行います。(選考年度:2020年度)

| 日程 | 時間 | 場所 | 内容 |
|------------------------|----------------------------|--|-----------------------------|
| 11月30日(月)～ 12月3日(木) | 9:00～17:00 | BSAのHP/ ba-koku@st.ritsumei.ac.jpに 申請資料一式を添付して提出 | 応募書類配布・提出期間/提出方法 |
| 12月7日(月)～ 12月9日(水) | 申請書類受付時に調整・ 確定後別途個別お知らせ | ZOOM | 面接期間 ※30分間程度の個人面接を実施します。 |
| 12月17日(木) | 10:00 | manaba+R >大学からのお知らせ >「留学・語学」 | 合否結果発表 |
| 2021年年明け以降 | 別途案内 | 別途案内 | 合格者顔合わせガイダンス |

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、みなさんの安全を第一優先とし、留学の選考や派遣の中止を判断する場合がありますので、その点ご了承ください。なお、派遣の最終判断は、派遣時期のおよそ3か月前を目途に全学・学部の方針に基づき行う予定です。

2 Business Studies Abroad II・IVとは？

BSA II及びIVは、経営学部で学んでいる皆さんに、自らの専攻する学問に対して国内だけでなく、グローバルな社会の要請や意義を確かめ学んでいただく経営学部独自の留学プログラムです。留学先大学で修得した外国語や専門科目は、経営学部の単位として認定されます。そのため、留学前の本学での学修と留学先での学修を積み上げていけば、留学したことで卒業が遅れることはありません。

またこのプログラムの基本は交換留学であり、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため(派遣型留学を除く)、留学先に学費を支払う必要はありません。「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」に基づき、留学期間に応じて奨学金も支給されます。

BSA II及びIVは、国際経営学科で学ぶ皆さんが、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍する「ビジネス・リーダー」になるために開発されたプログラムです。

| | | | |
|----|---|--------|---------------------------|
| 共通 | <ul style="list-style-type: none"> 経営系の大学やビジネススクールで各自の経営学の専門分野に応じた正規留学科目を受講することができます。 原則、中国の大学では中国語、それ以外の派遣先大学では英語で開講される授業を受けることになります。派遣先大学によってはその派遣先国の言語で開講される授業も受講できます。また、各自の語学レベルによっても派遣先国の言語で開講される授業の受講が許可される場合があります。 | BSA II | 1セメスターの交換型留学 |
| | | BSA IV | 2セメスター、3セメスターの交換型 / 派遣型留学 |

* 経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語もしくは中国語による「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSA留学プログラム、および全学留学プログラムにて海外に留学に行く学生はぜひ受講してください。

3 応募資格について

プログラムの応募資格は次の1)～6)の通りです。

- 1) 応募時に経営学部1・2回生であること。(3回生で応募希望の方は、事務室まで相談に来てください。)※大学院生は対象外
- 2) 累計もしくは直近セメスターのGPAが2.75～3.0以上であること。
- 3) 留学先の定める語学基準を満たしていること。
※詳細は「4-1. 派遣先一覧」の語学基準欄を参照してください。
※経営学部では申請と所定の審査に基づき、講座や検定試験の受講・受験料の補助を下記の通り行っています。
詳細は経営学事務室までお尋ね下さい。
【 英 語 圏 】・CLA(言語修得センター)の講座受講料 25,000円(上限)※在学中1回まで
・TOEFL iBT[®]テスト、IELTS、IELTS for UKVIの受験料 15,000円(上限)※1年度中1回まで
【 中 国 語 圏 】・孔子学院の中国語講座の受講料補助制度については、孔子学院ホームページにて確認のこと。
- 4) 本プログラムの趣旨・目的を理解し、留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修のすべてに参加可能であること。
- 5) 留学先のプログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。
- 6) 留学直前のセメスターに立命館大学に在学していること。



memo

4-1.派遣先一覧

| | 国・地域名 | 派遣先大学 | 実施期間(※1) | | 派遣人数 (※2※3) | GPA | 語学基準 |
|-------|-----------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------|--------|--|
| | | | II:1セメスター | IV:2セメスター | | | |
| 交換留学 | 中国 大連市 旅順 | 大連外国語大学 | 8月下旬～ 翌年1月中旬 | 8月下旬～ 翌年7月中旬 | 3名程度 | 2.75以上 | 派遣までに新HSK4級(180～194点)以上/ または中国語検定3級以上を取得する事 が望ましい |
| | 中国 北京市 | 対外経済貿易大学 (★) | 8月下旬～ 翌年1月中旬 | 8月下旬～ 翌年7月中旬 | 2・3名程度 | 2.75以上 | II:応募時に新HSK5級 (195点～209点)以上 IV:派遣までに新HSK4級 (180点～194点)以上を取得することが望ま しい |
| | タイ バンコク | タマサート大学 ビジネススクール | 8月下旬～ 12月下旬 | 8月下旬～ 翌年4月下旬 | 3名程度 | 3.0以上 | TOEFL iBT@テスト79点以上/ またはIELTS 6.5以上 |
| | フランス ストラスブール | ストラスブール大学 EMストラスブール ビジネススクール | 8月下旬～ 12月下旬 | 8月下旬～ 翌年4月下旬 | BSA II 1名 | 2.75以上 | TOEFL iBT@テスト72点以上/ またはIELTS 5.5以上 |
| | ドイツ ブレーメン | ブレーメン州立経済 工科大学 | 9月下旬～ 翌年2月下旬 | 9月下旬～ 翌年7月中旬 | 1名程度 | 3.0以上 | TOEFL iBT@テスト71点以上/ またはIELTS 5.5以上 |
| | ドイツ アーヘン | アーヘン応用科学大学 | 9月上旬～ 翌年2月下旬 夏期集中ドイツ語コ ース含む | 9月上旬～ 翌年7月中旬 夏期集中ドイツ語コ ース含む | 2・3名程度 | 2.75以上 | TOEFL iBT@テスト62点以上/ またはIELTS 5.5以上 |
| | スペイン マドリード | アルカラ大学 | 9月上旬～ 翌年1月下旬 | 9月下旬～ 翌年6月上旬 | 3名程度 | 2.75以上 | TOEFL iBT@テスト72点以上/ またはIELTS 5.5以上 |
| 派遣型留学 | イギリス レディング | レディング大学 【派遣型留学】 | IIなし | 8月上旬～ 翌年3月下旬 夏期集中英語コース 含む | 10名程度 | 2.75以上 | IELTS for UKVI 5.0点以上 (2016年度より、イギリスビザ取得において IELTS for UKVI Academic の受験が必須と なりました) |

(※1) 派遣時期は若干ずれることがあります。(※2) BSAIVで学生を派遣する際の派遣人数を記載。

(※3) 応募者多数の場合は、調整を行った上で第二志望の大学に派遣となる可能性があります。

(★) 対外経済貿易大学の語学基準(新HSK)は、BSA IIへの応募時のみ必須条件です。

4-2.授業形態

【中国語基準による留学】

- 対外経済貿易大学では次のような学修が可能です。
 - BSA II (0.5年)の場合、上記語学基準を満たした上で、中国語で専門科目を履修する。
 - BSAIV (1年)の場合、ビジネス中国語、中国語で専門科目を履修する。
 ※語学学習を目的として留学を希望する方には、大連外国語大学への応募を推奨します。
- 大連外国語大学では次のような学修が可能です。
 - 中国語科目、一部の経済・経営科目を履修する。
 ※経済・経営科目を受講する場合は、新HSK4級(210～300)以上の取得が条件です。

【英語国語基準による留学】 - 各自の専門分野に応じたビジネススクールの正規科目(英語開講科目)を受講。

- 各大学とも現地の言語の初歩レベルの科目を履修可能。
- また、現地の言語のレベルにより正規科目(現地言語にて開講される科目)を受講できる可能性があります。

5 学籍と受講登録について

5-1.学籍

夏出発のBSA II・IVプログラムで留学する際に、立命館大学での学籍が「在学」から「留学」に変更になる期間は以下の通りです。

| 派遣大学 | BSA II | BSAIV |
|--------------------------------|--------|------------|
| 大連外国語大学 | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| 対外経済貿易大学 | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| タマサート大学ビジネススクール | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| ストラスブール大学EMストラスブール ビジネススクール | 秋学期 | 秋学期・春学期(※) |
| ブレーメン州立経済工科大学 | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| アーヘン応用科学大学 | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| アルカラ大学 | 秋学期 | 秋学期・春学期 |
| レディング大学 | | 秋学期 |

(※) BSAIV / ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール派遣者には下記(B)の受講登録パターンが適用されます。

5-2. 帰国後受講予定の立命館大学開講科目 受講登録について

■夏出発のBSA II・IVプログラムで留学する学生は、以下の点に留意してください。

A. 【春学期授業開始日の前日までに留学し、留学終了届が受理された場合】

在学生と同じ日程で受講登録をすることとなります。

B. 【4月30日以前に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

帰国日が立命館大学春学期授業開始日を過ぎる場合は、受講可能な科目に制限があるため、注意してください。

※帰国日が5月1日以降となる場合、春学期科目・通年科目を受講することはできません。

→春学期科目・通年科目のうち、教養科目・外国語科目の受講は不可。専門科目のうち一定の科目を除き受講可能。

受講可能科目の詳細及び登録方法は、登録時期に別途案内があります。また、欠席した授業については、適宜課題等が提示されます(予定)。

C. 【5月1日以降に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

5月1日以降に帰国した場合は秋学期より復学するので、秋学期以降に受講が可能となります。

※ただし、夏季集中科目およびクォーター的運用をしている科目については、「留学終了届」が当該科目の受領開始日まで
に受理され、実質的に受講可能な場合は受講が認められます。

■注意点

- ・ 時間割および履修・登録の手引きは、manaba+Rに掲載されるので各自確認してください。
- ・ 登録方法、期間、時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間で管理されます。
- ・ 上記記載の「帰国」とは日本帰国・入国後にOIC学びステーションに学生本人が来室し、「留学終了届」を提出後に受理された状態のことを指しています。

6 留学決定後の事前ガイダンスについて

留学前に2～3回程度ガイダンスを行います。派遣には、このガイダンスへの出席が必須です。ガイダンスに出席できない見込みがある場合は、BSAⅡ・Ⅳに応募出来ません。

許可を得ずにガイダンスを1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加を取りやめる場合がありますので、注意してください。

また、保健センターが主催する健康管理ガイダンスや危機管理ガイダンスにも必ず参加してください。

※原則、授業以外での欠席理由については一切許可しません。予めご了承ください。

7 応募書類について

7-1. 応募書類

- 1) BSAⅡ・Ⅳ応募書類チェックリスト
- 2) BSAⅡ・Ⅳ申請書
- 3) BSAⅡ・Ⅳを希望する理由
- 4) 履修計画書
- 5) 直近セメスターのGPAを確認できる書類(※A4サイズ)
※CAMPUS WEBにログインの上、2020年春学期の「GPA一覧」をスクリーンショットし、PDF化してください。
※成績証明書は累積GPAが掲載されていない為不可
- 6) 外国語検定試験のスコア証明書のコピー
※派遣先大学に書類を送付する日から遡って2年以内に受験したもののみ有効。

【英語圏】

TOEFL iBT[®]テスト、またはIELTS (IELTS for UKVI) のスコア表のコピー

【中国語圏・大連外国語大学】

(検定受験済みの場合): 中国語検定またはHSK(漢語水平考試)スコア表のコピー

【中国語圏・对外経済貿易大学】

(BSAⅡに応募する場合): HSK(漢語水平考試)スコア表のコピー

- 7) パスポートの写し(有効期限内のもの)

※派遣先の国によって入国時やビザ申請時にパスポートの残存有効期限に条件があります。

各自条件をご確認の上、有効期限には十分注意してください。

7-2. 応募用紙の配布・受付場所

【応募用紙配布】: BSAホームページ(<http://ritsumei-ba-gblp.jp/>)よりダウンロード

※受付期間中のみ

【受付場所】: ba-koku@st.ritsumei.ac.jp に申請書類一式を添付して提出

※PDFフォームに直接必要事項を入力、またはPDFを出力し自筆で記入・スキャンの上提出してください。

※受付時間を厳守してください。提出締切日以降は一切受け付けません。

※申請書類提出時にメールにて面接可能日時を複数提示してください。調整し確定したスケジュール等を案内します。

※最終日ではなく、事前に十分余裕を持って書類を準備してください(不備がある場合は受理できません。)

8 選考方法について

選考は、申込レポート・成績・派遣先大学が求める語学基準を満たしているかを重視して、担当教員が書類審査及び面接を行い、経営学部教授会での審議を経て決定されます。

9 留学に関わる費用・奨学金について

9-1. 費用

交換留学の場合には、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため、留学先に学費を支払う必要はありません。
(レディング大学派遣者のみ、決められた期日までに授業料を振り込む必要があります)

【主な費用】

- ・包括海外旅行保険費用(※大学指定の保険に参加者全員加入していただきます)
- ・ビザ取得の為にかかる費用
- ・渡航費(航空券)
- ・現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・寮申請費および寮費
- ・現地での交通費
- ・教材費等
- ・クリーニング代、電話代、お土産代などの雑費
- ・娯楽費
- ・医療費(特に現地での歯の治療にかかる費用は日本の数十倍かかる場合があります)

【注意点】

- ・寮費、教材費等は派遣先大学で徴収されます。
- ・費用は、物価の上昇、為替相場によって変動しますのであくまでも参考としてください。

参加費用の過年度実績については、「BSA II・IV 参考資料(英語圏/中国語圏)」を参照してください。

9-2. 奨学金

※奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室またはOIC国際教育センターに確認を行ってください
※コロナ等の状況により留学形態に変更等が生じた際、給付および給付額に変更が生じる場合があります。ご注意ください。

1) 立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に給付されます。

| プログラム名 | 派遣先大学名 | 派遣期間 | 奨学金金額 |
|----------------|----------------------------|------------|-------|
| BSA II | 大連外国語大学 | 1 Semester | 15万円 |
| | 対外経済貿易大学 | | |
| | タマサート大学ビジネススクール | | |
| | ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール | | 25万円 |
| | プレーメン州立経済工科大学 | | |
| | アーヘン応用科学大学 | | |
| アルカラ大学 | | | |
| BSAIV | 大連外国語大学 | 2 Semester | 20万円 |
| | 対外経済貿易大学 | | |
| | タマサート大学ビジネススクール | | |
| | ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール | | 30万円 |
| | プレーメン州立経済工科大学 | | |
| | アーヘン応用科学大学 | | |
| アルカラ大学 | | | |
| BSAIV 【派遣型】 | レディング大学 | 2 Semester | 30万円 |

※奨学金の金額は今後変更となる場合があります。

2) 立命館大学海外留学サポート奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難であることが見込まれる者に対し、参加費用の一部を補助することによって、参加の支援を行うことを目的とする制度です。

海外留学サポート奨学金には、「予約採用型」「家計急変型」の2つのタイプがあり、いずれも要項に定められた家計基準を満たす場合に、奨学金選考の対象となります。給付額や申請・選考方法などの詳細は、以下を確認してください。

<https://secure.ritsumei.ac.jp/students/studyabroad/students/guideline-scholarship.html/>

3) JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)海外留学支援制度

立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途支給要件を告知した上で選考を行います。

10 単位認定と成績評価

単位認定について(※学修要覧(全学部共通編)P.26 より抜粋)

<規程:学則第37条、第39条、第40条、第41条>

- ① 海外留学や単位互換制度等他大学で修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として学部の教授会で審議のうえ学部長が認めることがあります。なお、60単位の上限は、個々の制度・プログラム毎ではなく、他大学等で修得した単位全体の上限となりますので、注意してください。
- ② 入学前に修得した単位を認定された場合(本学の科目等履修生として入学前に単位を修得した場合、社会人方式または社会人方式<AO方式>)は、①と合わせて60単位(うち入学前単位認定の上限は30単位)が上限となります。
- ③ 留学先で修得した単位の認定にあたっては、帰国後速やかに「留学終了届」と「単位修得願および単位認定書」を学部事務室に提出することが必要です。単位認定時期は、留学終了日を含む学期の末日となります。

※ 認定された単位の成績評価には「T」が記載されます。

※ 単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の成績証明書、受講した科目のシラバス(原文及び和訳)、派遣先大学の学年暦を各自準備し、提出する必要があります。

留学前より履修科目や単位認定について窓口で相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

■ 過年度派遣学生の単位認定実績(参考)

| 派遣先大学 | BSA II | BSA IV |
|--------------------------------|---------|---------|
| 大連外国語大学 | 10～25単位 | 40～50単位 |
| 対外経済貿易大学 | 10～20単位 | 40～50単位 |
| タマサート大学ビジネススクール | 10～15単位 | 実績なし |
| ストラスブール大学 EMストラスブールビジネススクール | 5～10単位 | 6～18単位 |
| ブレーメン州立経済工科大学 | 8～15単位 | 15～35単位 |
| アーヘン応用科学大学 | 8～15単位 | 実績なし |
| アルカラ大学 | 実績なし | 実績なし |
| レディング大学 | | 20～25単位 |

※単位認定数や単位認定分野・科目については、派遣先や各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

11 注意点

- 1) 派遣先大学への応募書類の準備、ビザの申請、航空券の手配などは全て各自で手続きする必要があります。経営学部事務室では対応していません。
- 2) 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置はありません。
- 3) 経営学部での選考において派遣内定者として決定したのち、派遣先大学に応募書類を送ります。受入の可否についての最終決定権は派遣先大学にありますので注意してください。また、派遣先大学によっては応募時に別途インタビューなどが課せられる場合があります。
- 4) 留学先での履修については、派遣先大学での規定に則ります。言語能力や履修規定によって履修科目が制限されることがあります。また、正規科目以外の語学科目(ESL等)や、履修する科目があらかじめ指定される場合もあります。
- 5) 本学及び派遣先が定める期間内に入出国するようにして下さい。(アジア圏は、プログラム開始・終了日の前後3日以内。その他の国地域は、プログラム開始・終了日の前後5日以内)
- 6) 日本学生支援機構奨学金受給者の方は、派遣決定後速やかに学生オフィスに報告を行い、必要な手続きを取ってください。
- 7) 3回生・4回生時に留学に行く場合、就職活動など個人的事由による帰国は一切認められませんので、事前に必ずキャリアオフィスや経営学部事務室に相談してください。
- 8) 派遣先大学の事情により、学生寮に必ずしも入れるとは限りません。その場合は、速やかに経営学部事務室へご相談ください。

12 個人情報について

応募書類に記入する個人情報は、本学からの連絡に使用するほか、今後のプログラム内容の改善を図るための学内統計資料として、個人を特定することのできない形に加工した統計処理用のデータとして使用場合があります。また、本学が留学の参加者に代わって派遣先大学、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館等に、必要な情報についてのみ提供します。

(7) 各派遣先大学紹介・学生体験記

大連外国語大学



国・都市：中国・大連市

中国の東海岸に位置し、中国東北遼東半島の最南端にあります。緯度は日本の仙台とほぼ同じです。中国の重要な港、貿易、工業、観光の都市です。

■創立：1964年

■学生数：約15,000人

■大学の特徴：

- ・中国東北地方唯一の外国語大学。漢学院、日本語学院などがあり、本校、分校、研究所など20ヶ所以上の施設を有しています。
- ・漢学院は中国で最も早く中国語言語本科を設けた学校の一つであり、設立20年で30ヶ国から長期留学生約10,000人、短期留学生約4,000人を受け入れています。
- ・漢学院には、中国文化と国際経済貿易の二つのコースが設けられており、中国文化コースで短期間に中国語のレベルを向上させることも可能です。
- ・2013年5月より大連外国語学院から大連外国語大学へ改名されました。



過年度派遣学生体験記

(2019年夏期 BSA II・男性)

「留学中に困ることなんてないだろう」そう思って出発した私ですが、約4ヶ月を振り返ってみると銀行開設、入学手続き、日々の学習面など、様々な人の助けをもらい無事に留学生活を終えることができました。留学は今まで2回経験したことがあったので、カルチャーショックを受けるということは全くなかったのですが、過去の留学とは異なり日本語でサポートしてくれる先生がいなかったため、自力で解決する必要がありました。初めの1週間で生活に必要なものを揃え、授業が始まりました。私のクラスだけ偶然日本人が一人だけだったのですが、そのおかげで私の課題であったスピーキング能力とリスニング能力を向上させることができました。日本で中国語を学習していた時もリスニングとスピーキングだけは授業内では微々たる向上でしたが留学中の普通の生活を通じて習得することができました。もし、クラスに日本人がたくさんいたら成果は少なかったに違いないと思います。

私は留学するまで大連はとても小さな街で、寒い、親日という印象しか持っていませんでした。実際行ってみると、方言が強い面や、比較的親切な中国人の方が多いという印象を受けました。また、ロシアと韓国に近い位置に存在するため、ロシア人と韓国人の留学生の割合が今までの留学の時よりも多かったです。メディアでは日韓関係がよくないといった報道がされているけれど留学生はそのような感情を一切持っておらず、たくさんの韓国人と親しくなり、1月の末に韓国で会う計画もできました。今までは韓国に行きたいと思ったこともなかったけど、このような関係を築くことができたのは大連で留学をしたことによるものだと思っています。

私は3回生の後期を利用して留学をしました。大学生活最後のチャンスという反面、正直就活や現地での生活に多少の不安を抱えて、留学をするか非常に迷いました。留学書類締め切りまで迷っていたのが最近のように鮮明に覚えています。しかし、最終的に留学しようという決断に至ったのは「行かずに後悔より行って後悔しよう」という覚悟ができたからです。その結果現地で思い切った自分のしたいこと、学びたいことを目一杯することができ、本当に行つてよかったです。行っていなかったら確実に後悔していたと思います。私は大連外国語大学で過ごした約4ヶ月半かけがえのない思い出、友達、学習をすることができました。もし、悩んでいる人は何にでも相談に乗るのでいつでも尋ねてください。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 | 日曜日 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------------|----------------|
| 1限目 | 精読 | 精読 | 精読 | 精読 | 聴力 | 休憩 観光 外食 | 休憩 観光 外食 |
| 2限目 | 閲読 | 聴力 | 口語 | 閲読 | 口語 | | |
| 3限目 | 語法 | 自習 | 自習 | 語法 | 太極拳 | | |
| 4限目 | | 自習 | 自習 | | | | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

对外経済貿易大学



国・都市：中国・北京市

北京市の特徴：

中国の首都、政治・文化の中心地である。
故宮、天壇など多数の世界遺産がある。

■創立：1951年

■学生数：約18,000人

■大学の特徴：

- ・北京市北東の市街区に位置し、近隣には中日友好病院や、日本でも馴染みの深いスーパー等の便利な施設があります。
- ・国際経済貿易の専門家養成の高等教育機関として、国家「211」プロジェクトが初めて承認した重点大学。経済、金融、管理等の分野において一流の水準を有する大学です。
- ・中国で最も早く国際学術交流を展開した大学であり、現在、世界の30ヶ国以上の国や地域にある100以上の大学や研究機構と協力交流関係を結んでいます。



過年度派遣学生体験記
(2017年度春期 BSAIV1.5年・男性)

「中国」と聞いたら皆さんまず何を思い浮かべますか？ 中国に留学する前の私だったらたぶん、「世界で一番人口が多くて、空気が汚くて、食事が辛い」等の表面的なことを述べていたと思います。ただ1年半の中国での生活を経験した今、この質問の答えを考えると「面白い国」という言葉が頭に浮かびます。それには大きく4つの理由が考えられます。

1つ目は中国での生活を通じて中国語の上達を肌で感じる事ができたことです。留学当初はレストランでの注文や学校での手続きにおいて簡単な言葉すら通じず、中国語の授業においても中国語で説明を受けるため初めはちんぷんかんぷんの中過していました。しかし、毎日授業で中国語を聞いていると少しずつ分かるようになりました。英語と同じように現地の人とも中国語でコミュニケーションを取れた時の喜びは格別であり、また同時に言っている意味が分からないととても悔しかったです。その繰り返しで今では中国語でそれなりの会話ができるようになり、それだけでも中国に行った意味があったなと思います。

2つ目は様々な人種・年代の人と関わることができたことです。中国人の正規生をはじめ、世界各国から来ている留学生、同じ志を持った他大学の日本人留学生、働かれている駐在日本人の方々と出会い、その他にもたくさんのご縁があり、数多くの経験をさせていただきました。日本では絶対に知り合うことのない人々と知り合い、良い人脈を築けたと同時に、その存在は異国の地での生活においてとても心強いものでした。このおかげで、留学生在活が充実したのになりました。

3つ目は交通費が安く時間がたくさんあったという理由から、中国の各都市に旅行できたことです。中国は国土が大きく様々な観光地が全国に散らばっています。中国の観光地は日本とは雰囲気が全く違い、壮大で驚かされるような土地が多く、今でも良い思い出として残っています。

そして、4つ目が文化の違いを学ぶことができたということです。中国は日本の隣国であり、外見は非常に似ていますが、面白いことに話す言葉は違うし、生活習慣や考え方も全く違います。留学当初はフラストレーションが溜まるのをよく感じていました。しかし、生活するにつれてそれは文化の違いであり、この地では普通の事であるから、私が合わせるべきなのだと気持ちを切り替えることができました。今考えると、このことに気付いてから言語の上達も感じられるようになりました。言語はその国の文化であり、現地に行かないとなかなか理解することはできず、また、文化を理解することは最も難しいのだと気づきました。この気付きは、今回の留学で一番の収穫だったと思います。

この他にも数多くの出来事があり、また時にはもちろん嫌なこともありました。そのすべてに共通していることは「経験」、そして「視野が広がる」ということだと思います。知らない世界に足を踏み出すというのは勇気がいることで、心配事や不安もつきものですが、それ以上に何らかの収穫があると思います。その収穫がいいこととは限りませんが、絶対に無駄にはならないと思いますし、それはやった者にしかわからないことだと思います。自分の目で見てみることで、他の人と違う感じ方があるかもしれません。やるかやらないか迷っている場合は、ぜひまず行動を起こしてみてください！

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 午前 | 総合/聴力 | 総合/読解 | 総合/聴力 | 総合/読解 | 読解/総合 | 観光など |
| 午後 | 自習 | 自習 | 自習 | 自習 | 自習 | |
| 夜 | | 買い物 | | 買い物 | | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※派遣学生の語学レベルによっては、英語開講、または中国語開講の専門科目を履修することが出来ます。

タマサート大学 ビジネススクール



国・都市：タイ・バンコク

バンコクの特徴：

王朝の歴史が深い都市でありタイ経済の中心でもある。

■創立：1951年

■学生数：15,000人

■大学の特徴：

- ・法律学校をその前身とした、タイ国内で2番目に古い名門大学。首相、大臣、議員、ビジネスにおける成功者など、タイだけではなく、国際的にも貢献している多くの人材を輩出しています。
- ・過去60年間徐々に拡大し社会科学、人文科学、自然科学どの領域にもコースが増設され現在では15の学部があります。
- ・バンコクの中心地にありチャオプラヤ川沿いのキャンパスで学びます。
- ・全ての科目が英語で開講されています。General Basic Courses、Business Core Courses に加えて、3つの専門分野 (Accounting、Finance、Marketing) から科目履修が可能です。タイ人の学生に加えて、世界中から集まる留学生と一緒に学びます。
- ・パディ制度あり。



過年度派遣学生体験記

(2016年夏期 BSA II・女性)

留学先では、驚くことばかりでした。まず、『タイ』についての印象が変わりました。正直、タイ留学をするにあたり、英語をここまで学べるとは思っていませんでした。英語圏からの留学生も多く、想像以上に優秀な生徒ばかりでした。インターナショナルなタイの生徒も多く、勉学に必死に挑む姿には感心しました。

今回の留学では、タイの文化や言語、何かに挑む姿勢、そして慈愛の3つを知ることができました。タイ語は授業、そしてビジネススクールのタイ人の友達が教えてくれました。どれも生活で役立つものばかりで、言語を通じてタイ人の優しさにも触れることができました。そして、特にタイ人の学生は、いつも何かを頑張っていました。勉強に励み交換留学を目指す生徒、就きたい職に就くために準備をする生徒、親の仕事をサポートする生徒など、目標に向かって真っすぐに挑んでいました。また、国王が亡くなった際は国民全員が涙を流し、慈愛の素晴らしさを伝えてくれました。

また、タイの授業は正直、かなりハイレベルでした。特に私が履修したビジネスの授業は英語が不自由なく話せる、理解できる生徒ばかりで構成されており、驚きました。また、タイ人の生徒は予習や復習を熱心にする為、プレゼンテーションや課題のクオリティもとても高いです。殆どの生徒が学費を払ってくれる親に大変感謝し、その気持ちを勉強に充て頑張っていました。そんなタイ人の学生と会う度、私もその姿勢を見習うべきだと気付かされました。

一方で、毎週出席することが楽しみな授業もありました。その一つがタイダンスです。各週様々な地域のタイのダンスを踊り、最終日には発表会で成果を披露しました。各地域の衣装や化粧まで体験することができ、大変良い経験となりました。留学生用の授業の一つなので、男性女性関係なく、タマサート大学に留学される方には是非お勧めしたいです。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|-----|--|----------------------------|-----|------------------------|-------------|
| 午前 | 自習 | Global Environment of International Business | Beginning Thai (タイ語初級) | 自習 | Beginning Thai (タイ語初級) | 旅行、映画、買い物など |
| 午後 | | | Introductory Microeconomic | | Thai Dance | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストラスブール大学

EMストラスブールビジネススクール



国・都市：フランス・ストラスブール
ストラスブールの特徴：

ストラスブールはパリからTGVで約2時間、フランクフルト国際空港からバスで2時間です。

■創立：1631年

■学生数：30,000人

■大学の特徴：

- ・ストラスブール大学はその歴史を16世紀にさかのぼるフランス有数の大学で、法、政治、マーケティング、コミュニケーション、ジャーナリズム、科学技術の教育を提供しており、今日に至るまで様々な分野の人材を輩出してきました。
- ・ビジネススクールはEM (Ecole de Management) ストラスブールビジネススクールとして知られ、52もの国と協定を結び、学生の3分の1が世界各国からの留学生で形成されている国際色豊かな機関です。



過年度派遣学生体験記
(2018年度夏期 BSA II・女性)

私は英語を学び始めた頃から、留学に行く事が夢でした。大学に入学してから第二外国語としてフランス語を新たに学びその魅力にはまり、経営の知識も英語とフランス語の知識も深められるEMストラスブールへの留学を決めました。

いざ行くとなると初めての長期海外留学であり、そもそも一人暮らしをすること自体が初めての勉強以外の不安も大きかったです。VISAの手続き、現地での部屋探しなど、行く前から苦戦の日々でした。しかし、このおかげで自分でよく考えて行動するという当たり前の様で意外と出来ていなかった部分が鍛えられました。

ストラスブールは予想よりもはるかに穏やかでとても過ごしやすい街でした。ルームシェア生活は毎日が楽しくルームメイトのフランス人とは一緒に料理をしたり、フランス語の勉強を手伝ってもらったり、他愛もない事からまじめな話までをする中で、本には載っていない日常の「生きた」会話を体験することができました。30分ほど歩くと、ノートルダム大聖堂がある市内に着きます。日曜日は大抵のお店は閉まっているのですが、朝にお気に入りのパン屋さんにパンを買いに行く事、道端で急に始まるジャズパフォーマンスに足を止める事が日曜日の習慣でした。忘れてはいけなかったのが11月末から1ヶ月間開催される大規模なクリスマスマーケットです。ノートルダム大聖堂とイルミネーションを背景にして飲むホットワインは最高でした。

授業においては、世界中から集まった学生達とグループワークやディスカッション、プレゼンテーションをしました。時には円滑に話し合いが進まなかったり、自分の英語力や知識不足によりついていく事が出来なかったりしましたが、この挫折のおかげで「なんの！」と食らいつく度胸がよりついたと思います。また、週に1度のフランス語の授業に関してはクラスメイトのレベルが目に見えて高く、最初は先生の言っていることを理解するのがやっとで色々と苦労しました。4ヶ月という短い留学期間でしたが、ルームメイトの助けもあり、今は少し自分の意見を伝えられる様になりましたし、日本でも出来る事が見つけられたので良い機会だったと思います。そして何よりも、この1セメスターで「アウトプット」の重要性に気づく事が出来、挫折しそうになる時ほど自分の成長の時だと考え行動に移す事が出来る様になりました。言語の勉強はやればやるほど面白くなっていくので、これからも楽しみながら継続していこうと考えています。

今回の留学において得られたものを今後に活かし、一人の人間として成長する糧としていきたいと思っています。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|--|--|---|--|--|----------|
| 午前 | 授業 (Intercultural Management and Leadership など) | 授業 (Human Resources and Socially Responsible Perspectives など) | 朝マルシェで買物 授業 (Economy of Happiness など) | 授業 (Principles in International Team Management など) | 授業 (Global Business Negotiation など) | イベントや小旅行 |
| 午後 | 課題 | グループワーク | 授業 (フランス語など) | バレエやオペラ鑑賞 | 料理 | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。 11

ブレーメン州立経済工科大学



国・都市：ドイツ・ブレーメン
ブレーメンの特徴：

中世以来の自由都市として地位を現代まで維持している。ブレーメン州はブレーメン市と、ブレーマーハーフェン市の2都市からなる。

■創立：1988年

■学生数：8,000人

■大学の特徴：

- ・州立単科大学で、ヨーロッパはもちろん世界の大学と交換留学協定を結んでおり、留学生の受入体制も整っています。学生の約10%が外国籍です。
- ・ドイツで最も新しい大学の一つであり、単位互換性の高さや国際性が特色。ドイツ国内の複数の賞を受賞し、2001年にはドイツ学術財団連盟より「改革単科大学」の名称が与えられました。
- ・BSA学生は経済学部の特別プログラムに参加します。ドイツ語および英語コースが開講され、それぞれの言語で専門科目に参加する事ができます。
- ・タンデムの制度あり。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・女性)

私は旅行で海外へ行ったことは何度かありましたが、長期滞在はこの留学が初めてでした。留学中は6人の留学生達とシェアハウスで生活していました。初めは少し緊張しましたが、皆フレンドリーでとても安心したのをよく覚えています。ホームパーティーなどで友達の輪も広がり、シェアハウスでの生活を選んで良かったと思っています。家の掃除問題で揉めたことは何度かありましたが、それも今となっては良い思い出です。

日々の過ごし方は人によって様々で、私は午前中にビジネスの授業、午後はタンデム、夜にドイツ語の授業というスケジュールを組んでいたため、一日中大学で過ごす事がほとんどでした。タンデムとはパートナーと互いに言語を教え合う時間で、私の留学生生活の大部分はこの時間で占められていたと言っても過言ではありません。各セメスター6~7人のタンデムパートナーがいたので、ドイツ語の授業のみ受講していた学生と比べると、毎週10時間ほど多くドイツ語を勉強していた事になります。留学して初めてドイツ語の勉強を始める人もいますし、願えば英語でのタンデムもしてもらえるので、ドイツ語の知識がない人でも心配ありません。

タンデムパートナーとは勉強だけでなく、旅行やパーティーなど、共に過ごす時間が多かったため、お互いの将来についてなどもよく話しました。そこで日本とドイツの文化や社会の違い、そして考え方の違いに気づかされる事が多々あり、改めて私は日本人なのだと感じさせられました。留学をする前は気づかなかったのですが、やはり自分の価値観など全てがヨーロッパの人々とは違い、良くも悪くも日本的だと自分を見直す事ができましたし、他国の文化を今までよりも理解できるようになったと思います。

留学生生活の終盤に、現地の友人に私の第一印象を聞いてみたことがあります。その答えは「日本人らしい小さな女の子」でした。今の印象は？と聞いてみると、「もう小さい女の子ではないね。全て完璧という訳ではないけれど、自分のやりたいことを何でも挑戦して、強くなったと思う。」と返ってきました。ドイツに来て、行動力のある学生たちを目の当たりにして、自分もこの様になりたいと思っていたので、その言葉がとても嬉しく、留学して良かったと強く感じました。

もちろん誰の助けも借りずに自分の力だけで過ごしてきた訳ではありません。多くの人の支えがあってこの留学を無事に終えることができました。ブレーメンで体験した事、学んだ事、出会った人々、全てが今私にとって大きな財産です。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|--|--------------------------------|--|---------------------------------------|---|--------------|
| 午前 | タンデム (ドイツ人とペアを組み、 お互いの言語を教えあう 時間) | 授業 (Global Marketing など) | 自習 | 授業 (Strategic Management など) | 授業 (Social Media Marketing など) | イベントや 小旅行 |
| 午後 | タンデム 英語授業 | タンデム ドイツ語授業 | 授業 (Elements of Corporate Finance など) | タンデム | 自習 | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。 12

アーヘン応用科学大学



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSA II・女性)

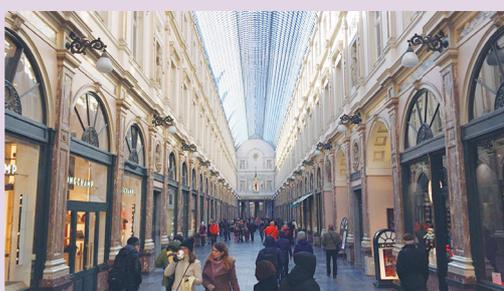
私にとって2度目のドイツ滞在は、6ヶ月間のアーヘンでの留学生活でした。留学するまではよく知らない街だったのですが、実は神聖ローマ帝国の時代に有名な場所であったり、世界遺産である大聖堂があったり、ドイツで有名なクリスマスマーケットにおいて国内で5本指に入るほどの人気地であったりと、魅力が詰まった場所でした。また、アーヘンはドイツ・オランダ・ベルギーの3国が接する場所の近くに位置するので、バスや電車で少し乗るだけで、他の国に行くことができます。学生の街として知られており、賑やかですが、自然豊かでもあり、ゆったりと過ごせる場所もたくさんありました。

アーヘン応用科学大学では、主にビジネスについて英語で学んだほか、ドイツ語の授業をドイツ語で説明を受けながら受講することも出来ました。授業は基本的には20人くらいの人数で行われ、多くても70人ほどでした。フランス、ポーランド、スペイン、カザフスタン、アルメニア、中国、韓国、アメリカなどさまざまな国からの留学生とともに学びました。授業は先生が作り上げるのではなく、生徒も積極的に参加して作り上げていく形でした。自分の意見をしっかりと言うことが出来ないときはやはりしんどい思いもしましたが、周りの友達が意見を聞いてくれる環境はありがたかったです。

ドイツで生活して強く感じたことは、多民族国家であるドイツでは、いろいろな人種の人がいる生活が当たり前であったということです。日本に住んでいると外国人に出会うと『観光客なのかな』と考えることが多いと思います。ドイツではそもそも、どの人がドイツ人であるか/そうでないかが見た目からは区別がつかず、本当にさまざまな人種の方がいるゆえに、ドイツ人らしさとは何かがよくわかりませんでした。それぞれの人種を区別して捉えるという考え方はあまり良くないかもしれませんが、私はそのように強く感じました。隣国と陸続きで、移民の受け入れを多く行っているがゆえの実情を体感できたように思います。

留学生活全体を通して私が思ったことは、行動力・瞬発力の大切さです。ドイツに住む人はコミュニケーションを多く取っていて、バスで出会った初対面の人に声をかける方がいたり、わからないことがあればすぐに聞いたり、それにすぐ答えてくれる誰かがいるという状況を普段の生活の中でよく目にしました。赤の他人同士であっても、困ったときはとっさに協力し合っている姿を目にすることができたのはドイツのいいところだと思いました。日本にいと、なにか手助けをした方が良くと思われる状況で自分の中で相手がどう思うかを勝手に推測し、さまざまな理由をつけて動かないことがありましたが、その葛藤自体がもったいないのだと気付きました。なので、日本に帰ってきてからは、まずは手を差し出すというスタンスで生活しています。動いてよかったと思うことが圧倒的で、これを当たり前に行っているドイツの人の在り方は見習うべきだと感じました。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：ドイツ・アーヘン

アーヘンの特徴：

電車でパリから約2時間半、ブリュッセルからは約1時間。車で30分ほど行けばオランダ/ベルギー/ドイツ3ヶ国の国境地点に到着する。古代ローマ帝国時代から温泉保養地として知られており、8世紀末には、一時、フランク王国のカール大帝が王宮を置き事実上の首都となった。

■創立：1971年

■学生数：13,000人

■大学の特徴

- ・世界中の170大学と協定を持っているが、現在日本での交換協定校は立命館大学経営学部のみ。
- ・ドイツの新聞社（Die Zeit）による大学ランキングのビジネス部門でトップにランキングされている。
- ・10学部からなり、アーヘン内の4キャンパスとユーリッヒの1キャンパス、計5キャンパスで開講されている。

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|-----|--------|----------|-----------------------|-----------|--------------------------|
| 午前 | 自習 | 国際経営演習 | マーケティング論 | ドイツ語講座 | | 買い物、 ジャズダンスレッスン など |
| 午後 | | 情報技術講義 | 情報技術講義 | マーケティング論 欧州ビジネス管理論 | 欧州ビジネス管理論 | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。



国・都市：イギリス・レディング市
レディング市の特徴：

ロンドンから電車で25分。商業都市で、国際企業の英国支社が近隣に立地しています。

- 創立：1926年
- 学生数：15,000人
- 大学の特徴：

- ・ヒースロー空港／ガトウィック空港へのアクセスが良い場所にあります。
- ・キャンパス内には湖もあり、緑も多く、生活環境はとても良いところです。在学生の10%程度は留学生です。
- ・国際経営のレディング学派が生まれた大学であり、イギリスで最初に作られた伝統あるファウンデーションコースの経営関連の授業は、ビジネススクールの教授陣が教鞭を取ります。
- ・ファウンデーションコースに在籍する約120名の学生と共に学修することによって、英語力だけでなく、経営学の基礎学力も飛躍的に伸びることで有名なコースです。

※BSAIVプログラム/レディング大学は、〈交換留学〉ではなく、〈派遣型留学〉ですので注意してください。

レディング大学



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・男性)

本プログラムを通して、自分は様々な面において成長できたと思います。このプログラムを総合的に見ると、過去に習った理論などをさらに実践的にどういかにせるかなどといった、より発展的なステージで物事を考える良い機会になったと思います。そして、レディング大学での学びの環境は自分の理想に非常に近いものでした。そう考えさせられた理由は教育のシステムと内容にあると思います。

レディング大学のIFPでは、立命館のように1週間に計14科目ほど、それぞれ90分間全く別の科目を学ぶシステムとは違い、基本的に履修科目は4つで、1週間に計14回ほどの講義があり、それぞれの授業時間は50分でした。つまり、1週間の授業のコマ数は同じですが、授業を受ける時間と科目の種類が少ないのです。1週間の間に同じ科目が複数回、別々の日にあることで、仮に予習や復習ができなくても自然と頭に定着しやすくなっていました。そして受け身の授業だけでなく、Seminar、Tutorialなどと少人数形式の異なる形態の授業も行なわれていたため、より濃い内容の授業を受けることができました。

春季タームではグループワークが増え、特に経営学の授業での取り組みは忘れられないものとなりました。マーケティングプロジェクトの課題で、センター街にあるお店のマーケティング調査を行うというものがありました。そのマーケティング調査をする際の着目点などは、その直前に習った理論などを参考にして、それらを反映させて顧客のデータを集めていくというものでした。こうして実験的に経営の理論を利用してデータを見るのは初めてで、非常に楽しく取り組むことができました。そこで苦労したのは、メンバー間のモチベーションの差でした。全員がという訳ではありませんが、課題に対する姿勢は文化背景によって大きく差があるように感じ、ほぼ全てのグループに必ず1人は貢献度0%の人がいたり、グループワークやリーダーシップのスキルが求められる課題でした。

留学生活中は本当に沢山の人の関わりを大切にできたと感じています。タームが始まってすぐバンドサークルやテニスクラブに所属して、授業で一緒になる学生以外の人との関わりも増やすことができました。そして、自分の趣味の音楽がきっかけで、IFPで初の、生徒が特技を披露するタレントショーが開催されました。そこではメインパフォーマーとして会場を盛り上げることができ、IFP以外の人たちなども誘うことができ、面白いイベントを生み出すことができ満足しています。

たったの半年間でしたが、沢山の人と触れ合い、出会いや環境を非常に大切にできた素敵な留学生活だったと思います。今後もこの半年間で学んだことを活かし、より良い大学生活を送りたいと思います。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 週末 |
|----|------------------------------------|--|----------------------|--|---------------------------------------|------------------------------|
| 午前 | 授業 (Economics など) | 授業 (Economics など) | 授業 (Economics など) | 授業 (Introduction to Business and Management など) | 授業 (International English Plus など) | 掃除、買い物、バスケットボールパーティー 課題など |
| 午後 | 授業 (International English A など) | 授業 (Introduction to Business and Management など) | バスケットボール ソサエティー | 授業 (Academic Skill など) | 買い物など | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

14. 【立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項】

「BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 基本姿勢

立命館大学 BSA プログラム（以下「プログラム」という。）に参加する学生は、次の点を遵守しなければならない。

- (1) プログラムの目的と主旨を理解し、積極的にまじめな態度で勉学に励まなければならない。
- (2) 立命館大学（以下「本学」という。）の学生として自覚と誇りを持って、本学および派遣先大学・機関（以下「派遣先」という。）の名誉を傷つける行動は慎まなければならない。
- (3) プログラム期間中は、日本の法令および本学の諸規則の他、派遣先の国・地域の法令および諸規則を遵守し、本学および派遣先の教職員の指示に従わなければならない。

2. 健康管理等

- (1) 健康管理は、自らの責任でおこない、服用の必要な医薬品や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (2) 医師による診断書などに基づき、留学プログラムへの参加または継続が困難であると本学が判断した場合、これに従うこと。この際、日本国外に滞在している場合は速やかに帰国すること。
- (3) 前号によって参加または継続を中止した後、健康状態等が回復したとしても、教学上の理由等から、本学の判断によりプログラム復帰を認められない場合があることを理解すること。
- (4) 本学が指定する海外旅行保険に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途保険に加入することを指定される場合は、本学指定の海外旅行保険、派遣先大学指定の保険の両方に加入すること。
- (5) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について所定の方法で事前に本学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。
- (6) 傷病等により入院加療の医療措置が必要となった場合は、すみやかに本学および派遣先に報告するとともに教職員の指示に従うこと。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (7) プログラム期間中、傷病等により、保証人による救援などが必要と本学が判断した場合、保証人に対し、本学の指示に従って行動するよう、予め了承を得ること。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (8) 既往症および、現在疾患等がある状態でプログラムに参加し症状が悪化したとしても、本学および派遣先に対して、何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わず、関連して必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (9) 緊急に医療手当または手術の必要が生じ、本人または保証人の同意を得る時間的猶予が無い場合は、派遣先の当該担当者の判断によって処置することに同意すること。
- (10) 本学による定期健康診断もしくは本学の指定する健康診断を、出発日から遡って1年以内に受診すること。
- (11) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。

3. 経費および補償等

- (1) プログラムに要する費用（研修料・宿泊費・航空運賃・保険料等）は、指定の期日までに納入すること。
- (2) プログラムの派遣候補者として選抜されることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (3) 所定の期日後に、本人の傷病、処分等の理由によってプログラムへ参加または継続が出来なくなった場合、または辞退した場合には、必要経費について負担すること。
- (4) パスポートやビザの取得手続きに関する遅延および申請却下や天災・災害・ストライキ・伝染病・政治情勢の変化・戦争・テロ、その他不可抗力に起因する事態によって、プログラムの中止、中断及び内容の変更があった場合、本学及び派遣先に損害賠償を要求せず、前号と同様の費用を負担すること。
- (5) 本人の不注意または、本学及び派遣先が管理できない状況下で、事故、病気または死亡事故が発生した場合、本学及び派遣先に対して何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わないこと。
- (6) 本人の所有物の盗難や損害、交通事故、刑事事件等、本学及び派遣先が管理できない状況下で発生した場合、本人の責任で対応しなければならないこと。
- (7) 本人の故意または重大な過失により、プログラムに重大な損害を与えた場合は、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (8) プログラム参加に伴う渡航期間が、本学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われなないこと。

4. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供・共有し、プログラム運営のために利用すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けること。

5. 誓約書の提出

上記事項を理解し厳守するために、本人及び保証人連名による誓約書を提出すること。

「BSA I プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「BSA I plus プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「BSAIIIプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 派遣先での研修に際しては、所定の航空便等を利用して入国し、個人での入国を行わないこと。
- (2) 派遣先での研修修了後は、所定の航空便等を使用して帰国し、個人での帰国を行わないこと。
- (3) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。
- (4) 所定の基準に基づき、学業面から留学プログラムへ参加の継続が困難と本学が判断し、帰国を命じた場合には、当該措置に従うこと。

2. 自由時間における行動

- (1) 派遣先の寮規程または入居したホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (2) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (3) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (4) 旅行または外泊をする場合は、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (5) 前号の旅行または外泊の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。

「BSA II・IVプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

本学および派遣先が定める期間内に出国・帰国すること。

2. 自由時間における行動

- (1) 本学および派遣先が指定する居住施設に入居すること。
- (2) 派遣先の寮規程および入居した居住施設の規則に従い、生活すること。
- (3) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (4) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (5) 派遣先の休暇期間中に、旅行または一時帰国をする場合は、派遣先にその旨を報告するとともに、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (6) 前号の旅行または一時帰国の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。